

# 番組審議会

## 第666回

2022年12月

### ■ 審議会の構成

委員総数 10名

委員長 音 好 宏

副委員長 中 江 有 里

委 員 江 澤 佐知子 尾 縣 貢  
萱 野 稔 人 喜田村 洋 一  
佐 藤 智 恵 長 嶋 有  
水無田 気 流 目加田 説 子

TBSテレビ 佐々木 社 長

龍 宝 取締役

井 田 取締役

瀬戸口 編成局長

中 田 編成考査局長

村 田 視聴者サービス部長

天 野 番組審議会事務局長

### ■ 議事概要

#### 1. 審議事項

- (1) 今年のTBSテレビの番組全般、及び放送界について
- (2) その他

#### 2. 事務局報告事項

- (1) 視聴者からの声について
- (2) 次回審議会について

### 【委員の主な意見】

◇ 今年印象に残ったTBSの番組

□ 「戦争と嘘=フェイク」

- ・ 1テーマで太平洋戦争とウクライナ戦争を描ききったのは秀逸。
- ・ 現地に出向いて取材することの価値をこれほど感じた番組はなかった。
- ・ 海外支局の増尾・秋場・須賀川各記者の言葉・分析には重みがあった。
- ・ 放送局としての姿勢を示していた。

□ 「報道特集」

- ・ 旧統一教会のもたらした信者の家庭崩壊など、意義深い報道。引き続き真摯な報道を期待したい。

□ 「news 23」

- ・ 社会課題の解決を応援するポジティブジャーナリズムにより、若い視聴者の信頼を獲得しようとする方向性が明確に。

□ 「ラヴィット！」

- ・ やはりこの番組の躍進が印象に残った。字幕に頼らない、生放送のスリルを保ったまま、新鮮な内容を今もなお摸索し続けている。

□ 「速報ドラフト会議2022」

- ・ 野球のコアファンに限らず幅広い視聴者層を満足させることに成功。
- ・ 2021年の番組審議会の指摘に対し細部にまで配慮がされていた。

□ 「妻、小学生になる。」 「石子と羽男」

- ・ 生活者目線の作品でドラマでは特に光っていた。

□ 「DCU」

- ・ ハリウッドとの共同制作スケールの大きなドラマだった。続編に期待。

□「ジョブチューン」

・ジャッジ企画が始まってから格段に面白い。縁の下の力持ちの開発部門にスポットをあてるのは貴重な番組で、是非、世界配信を。

□「世界くらべてみたら」

・エンタメ性と教育効果がある。若者が海外に興味を抱くきっかけは圧倒的に映像メディアなので、教育格差やごみ問題など良い教材となる。

□「不夜城はなぜ回る」「学校中を笑わせよう！」

・作り手が出演者のタレント性に阿ることなく、企画力・アイデアで勝負する番組に力を感じる。

□（ニュースサイト）「TBS NEWS DIG」

・厚みと多様性・深さの追求・スピーディな防災情報など、あるべきニュースの理念型であり、この方向性を伸ばして欲しい。

◇TBS全般および、今後のTBSに望むこと

□新ファミリーコア戦略を今年も着実に進めたことが評価できる。他局との差別化、新たな発想に向けて、底力を発揮して頂きたい。

□TBSは「半沢直樹」や「逃げ恥」など、社会現象になる大ヒット番組を制作する能力があるが、ここ数年、その能力が発揮できていない印象がある。若者向けのコンテンツ制作は大切だが、幅広い年齢層から人気を得られるコンテンツも制作して欲しい。

□お笑いの分野でも近年、差別・暴力を題材にしたものは減っているが、制作側がその内実を正しく認識しているか疑問に思うことも。笑いの感覚のアップデートが必要ではないか。

□メインアナウンサーが固定している印象。新しい人が目に見える形で育て欲しい。またアシスタントとしての女性アナウンサー起用の時代は終わらせた方が  
良い。

□バラエティ番組に出演したタレントがケガをした件。業界では年に複数回報告  
されるが、出演者・視聴者の信頼を損ねるので、組織として安全確認についての  
方向性を打ち出して欲しい。

□報道・情報番組等での、TBS をリーダーとする JNN 系列各局の取り組みは、多  
様性を重視していて評価したい。

◇ 放送界全般について

□地道に時間をかけた番組作り、ネットでは難しい大がかりな制作など、テレビ  
局が果たすべき責務がある。テレビにはまだまだ大きな影響力がある。その力を  
テレビ界・芸能界・経済界の互助会のように使わず、ある種の公共性を保った番  
組作りを意識して欲しい。

□日本のテレビ局の10倍～100倍の制作費をかけた海外コンテンツに慣れると、  
どうしても日本のテレビ局の番組は安っぽく見える。広告減少→予算削減→視聴  
者離れ→広告減少という負の連鎖から抜け出るよう、業界全体で取り組まないと、  
市場は縮小するばかりではないか。

□信頼される情報の供給源となるべく、放送領域に留まらずネットも含め、将来  
デザインを図って頂きたい。

\* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上  
に活かしていく所存です。(TBSテレビ番組審議会事務局)